



レジリエントな 防災・減災機能の強化

災害大国を生き抜き、未来へと繋ぐ社会を目指して 産学官の連携による災害情報システムを実現

東日本大震災をはじめとする大地震、火山噴火、超大型台風やゲリラ豪雨といった極端気象など、近年、頻発する自然災害による被害はさらに甚大さを増している。今世紀半ばには南海トラフ大地震の襲来も危惧されており、大規模自然災害の発生にも耐える社会インフラの構築は喫緊の課題である。レジリエントな防災・減災機能の強化は、リアルタイムな災害情報の共有と利活用により、現在、そして次世代の人々が安心して生きていける社会の実現を目指す。



プログラムディレクター

堀 宗朗

東京大学 地震研究所
巨大地震津波災害予測研究センター
教授・センター長（第1期終了時）

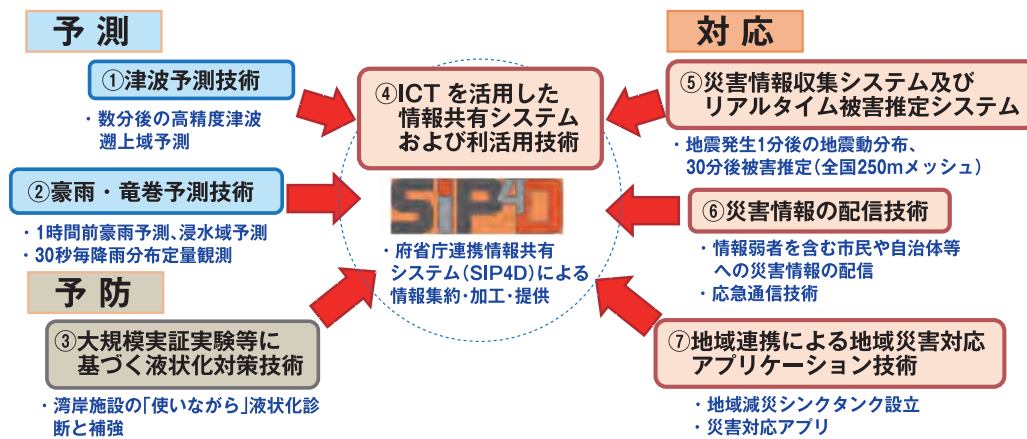
Profile

1984年東京大学工学部土木工学科卒業。87年カリフォルニア大学サンディエゴ校応用力学基礎工学科（Ph.D.）を卒業。東北大学工学部講師、東京大学工学部助教授などを経て、2001年より東京大学地震研究所教授、2012年より地震研究所 巨大地震津波災害予測研究センター教授・センター長、同年より理化学研究所計算科学研究機構の総合防災・減災研究ユニットリーダーも務め、2019年4月より国立研究開発法人 海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門 部門長を務める。専門は応用力学、地震工学、計算工学。主な研究テーマは高性能計算の地震工学への応用など。

研究開発テーマ及び実施体制

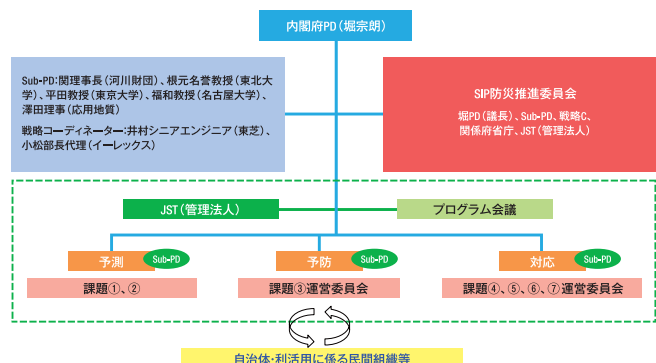
1. 研究開発テーマ

予測・予防・対応に関わる災害情報を府省間で共有するレジリエンス災害情報システムの構築を目指す。



2. 実施体制

プログラムディレクター（PD）、内閣府のもと、サブPD、関係府省庁、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が参加するSIP防災推進委員会を設置。その下に、プログラム会議及び研究課題ごとに運営委員会を組織した。この体制により、「府省を越え情報を伝達し共有するための仕掛け」と「予測や観測に関わる最先端科学技術を災害対応に関わる実践に直接役立てる仕組み」作りを射程とする研究開発事業を展開した。



5年間の成果

主要な成果

SIP4D (府省庁連携防災情報共有システム) を実災害や大規模訓練で活用

● 広島県庁等で平成30年7月豪雨 (西日本豪雨) に活用



実災害で医療活動、道路啓開 及び物資支援等に活用

● 陸上自衛隊東北方面隊等で大規模訓練に活用



自衛隊の大規模訓練において、各地の情報を一元集約

- 西日本豪雨 (平成30年7月豪雨) 等の実災害オペレーションで、内閣府防災の災害時情報集約支援チーム (ISUT) が「SIP4D」を活用。平成31年度からはISUTの本格運用を開始。
- SIP4Dにより電子地図へあらゆる情報を重ね合わせ、関係機関で情報共有。災害担当対応のオペレーションにおいて、紙地図や手書きホワイトボードを一掃。

社会実装された拠点

